

大分県医療・福祉労働組合連合会（大分県医労連）  
〒874-0938 大分県別府市末広町 6-27 ミッドビル 2B  
Tel : 0977-75-7556 Fax : 0977-75-7560  
E-mail : [irouren3984@bloom.ocn.ne.jp](mailto:irouren3984@bloom.ocn.ne.jp) ホームページ : <http://oita-irouren.net/>

平成 26 年 3 月 14 日発行



## 3・3女性集会に67名参加！！九州女性集会 in 長崎に参加！！



### 大分県医労連女性集会開催

ひな祭り“学んで!食べて!踊りましょう!”をスローガンに  
3月3日(月)別府花菱ホテルで行われ 67名の参加がありました。

女性委員長の野上千春さんの開会挨拶に始まり、医労連本部の煙崎久美子中央執行委員が元気いっぱいに情勢報告と春闘の運動方針を提案がありました。記念講演では、医労連の副委員長でもあり大分県労連議長の日野智子さんが『病院から地域施設への介護連携』という題で、実際の在宅入浴支援のビデオを流しわかりやすく地域への看護・介護連携についてのお話でした。午後からは、西別府支部の看護師さんがお仲間を連れてきてのフラダンス。文字通り“学んで!食べて!踊りましょう!”“老いも若きも大いにリフレッシュできたひとときでした。



検索!

<http://oita-irouren.net/>

3月1日～2日で九州女性集会が長崎の伊王島で行われました。各県から約50人・大分からは5人の参加でした。1日目は腰痛予防について日本ノーリフト協会の保田淳子さんの講演と日本医労連の煙崎中央委員より今後の情勢・医療報酬の改定・介護の改定についてと労働事態アンケートの結果についての説明がありました。ノーリフトとは、介護者が患者を抱えない事で、リフトだけを使うのではなく、スライディングシートの利用法、介護者が無理に体を引っ張らない方法などを説明しました。この方法は、保田さんがオーストラリア留学で学ぶ帰国してから「ノーリフト協会」を立ち上げたそうです。是非日本に広めて行きたいと話しました。2日目の分科会では、長崎の原爆について69年前の体験者より説明がありました。今でも被爆された心の傷が深くあり、原爆手帳を継続されるには3ヶ月に1回精神科・内科に通院して証明されなければいけないそうです。改めて原爆の恐ろしさを痛感しました。充実した女性集会でした。【医療生協労組より】

### 労働組合とはなんぞや?

26

労働組合への加入を!!

竹信三恵子著『しあわせに働ける社会へ』の中で、ある非正規労働者の青年が「働いたどの職場でも、社員は社長や上司の顔色をうかがい、そこでどうやってうまくやるかばかりを競い合っていた。働き手を守る法律があることや、働きたい権利があるのだということも、聞いたことがありませんでした。一銭の特にもならないのに自分の権利を主張してくれる人たちが沢山いたことに驚いた。これらの新しい体験を通じて、人は人を助けることで自身も幸せになれること、そうした交流の中で幸せな働き方を作っていくのだと実感できた。」と書かれています。この文章でも示されているように多くの労働者は自分が働いていく上で、どのような権利があるのかを知らないのです。がむしやりに働く、働けなくなると厄介者と呼ばかりに会社側からは冷たい言葉をかけられ辞めざるを得なくなる。そして自分が悪かったんだと自責の念を抱えてしまう。本当にそうでしょうか? 誰もが笑顔で働き続けるためには、労働条件・権利の必要最低限度をきちんと学習しておくことが必要です。そして、誰に相談すべきかも知っておくことです。これこそが組合へ加入する最大のメリットです。組合に関わるあなたが、そのことを周りの人に伝えてください。

春、新しい仲間を雇ってください!!